

# 新・東中とんぼ通信

発行 横浜市立若葉台東中学校 編集責任 鈴木 徹

イラスト こみね さおり



第47号

## わかばタイムをご紹介します

今回は、11月17日に行われた「総合的な学習の時間」の紹介です。まずは、本通信38号でお伝えした「キウイ」を使用した学習から当日は「わかば6組高田級」・「わかば7組寺田級」・「わかば8組岡山級」がキウイジャムを製作しました。コトコトと丁寧に煮詰めたジャムを試食させていただきましたが大変良いお味でした。さすがに3年生は手際も良く経験の積み重ねを感じさせられました。「時が人を育てる」という事例です。これこそ「わかばタイムの財産」と考えて良いのではないのでしょうか。3年生の皆さん、3年間で得た能力をこれから先も役立ててください。この3クラスの他にも、「わかばクラス」において自主的な取り組みが始まりました。



栽培品目の選定から栽培方法・栽培管理まで、一連の学習課程を全て自分たちで行っている「コマツナ」の栽培。コンテナの使用は、生徒が考えた防寒対策です。さらには、冬に備えて「マルチ」を取り入れたダイコン畑。わかば担任は頼まれた物品を用意しただけです。学習が、いよいよ担任の手を離れ始めたようで、とてもよい傾向だと思っています。「自ら課題を設定し、考え・予測して対処していく」、この能力を獲得するには、一見無駄と判断されがちな時間の経過と、加えて、学習における試行錯誤や失敗の繰り返しは、むしろ大切な要素になるでしょう。その性格のせいも、効率追求優先の現代社会において、「総合的な学習」は最も学習成果がわかりにくい学習であるといわれる事も多いようです。それゆえに、東中の皆さんには、「わかばタイム」で獲得した、自分自身の力を大切にしていってほしいと願うのです。学校を卒業し、一般社会に羽ばたいていけば、何事においても、最後に頼りとなるのは自分自身で判断し、物事を進めていく力だと思います。

## 厳しい話です

プールを見てビックリしました。プールの壁面にヤゴがびっしり張り付いています。その数は数千頭、もしくはそれ以上かもしれません。ただし、このヤゴ達の多くは越冬できずに死んでしまうと思われます。なぜなら、ヤゴは南方系のウスバキトンボの幼虫と考えられ、冬の寒さには耐えられないからなのです。これも厳しい自然の掟おきてです。



## 記事のお願い

「東中・新とんぼ通信」を読んでいただいている保護者の皆様方をお願いしたいことがあります。「子供時代に自然の中で遊んだ思い出」という内容で記事を寄せて頂ければというお願いです。(記事には題をお付けください。文字数は400字程度迄でお願いいたします。投稿に際してはペン・ネーム使用も可能です。)ぜひ、「編集責任者・若葉台東中学校・鈴木 徹まで」記事をお寄せください。記事をお寄せいただいた方々には、ささやかではありますが、掲載のお礼として「3匹のカエル君シリーズ(絵は新・とんぼ通信に掲載済み)作 こみね さおり」の絵はがきを進呈させて頂こうと思います。どうかご投稿、よろしくお願いたします。